

付着生物ラーバ情報

1 ラーバ等の出現状況

直近のラーバ等の出現数は表1のとおりです。

(1) ユウレイボヤ(通称：ハナ)

ラーバは見られていません(図2)。

(2) キヌマトイガイ(通称：コメガキ)

ラーバは久栗坂沖で15.0個体/m³、川内沖で645.3個体/m³見られました(図3)。

(3) オベリア類(クラゲの仲間、通称クサ)

クラゲは見られていません(図4)。

(4) アミクサ(海藻、通称クサ)

小枝は見られていません(図5)。

(5) マボヤ

久栗坂沖でラーバが3.9個体/m³、卵が0.6個/m³見られました(図6)。

2 今後の見込み

現在、陸奥湾の中層水温が3～9℃台に低下しています。

ユウレイボヤの例年のラーバ出現ピークは過ぎており、最も多い奥内沖でも累積ラーバ数は5.0個体/m³と少ないことから、分散済みの籠への付着は少ないと予測されます。

キヌマトイガイのラーバは昨年と同じように早く出現し、数も増加してきたことから、早い時期に籠や耳吊り、マボヤ採苗器へ付着するものと思われます。

マボヤのラーバが西湾でまだ見られています。水温9℃以下では付着できなくなるので、付着は終了したと思われます。

これから春にかけてアミクサ小枝が本格的に出現し、オベリア類のクラゲが出現するものと思われます。

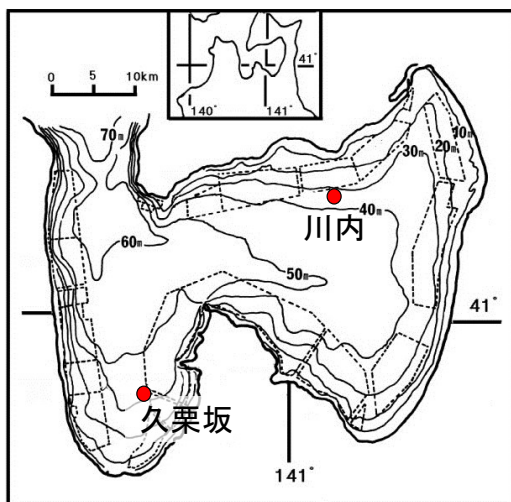


図1 ラーバ調査地点

表1 ラーバ等の出現状況

調査地点	調査月日	ユウレイボヤ	ザラボヤ	マボヤ		キヌマトイガイ	ムラサキガイ	アミクサ
				ラーバ	卵			小枝
久栗坂沖	H31.1.23	0.0	1.1	3.9	0.6	15.0	68.3	0.0
川内沖	H31.1.23	0.0	0.0	0.0	0.0	645.3	195.3	0.0

※久栗坂・川内沖は実験漁場内

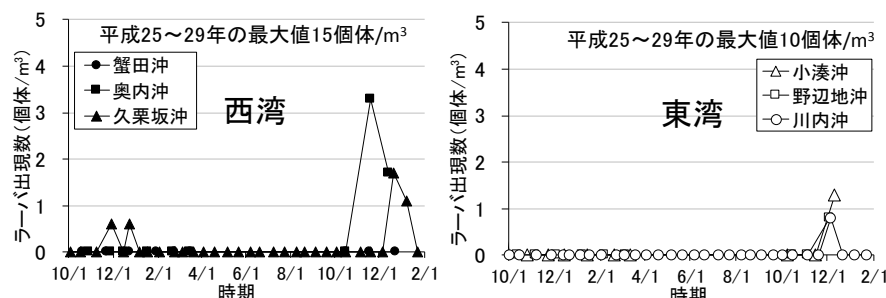


図2 ユウレイボヤ出現数の推移(平成29年10月～平成31年1月)

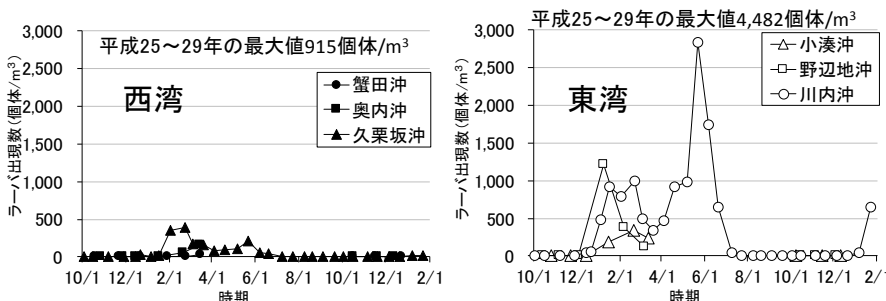


図3 キヌマトイガイ出現数の推移(平成29年10月～平成31年1月)

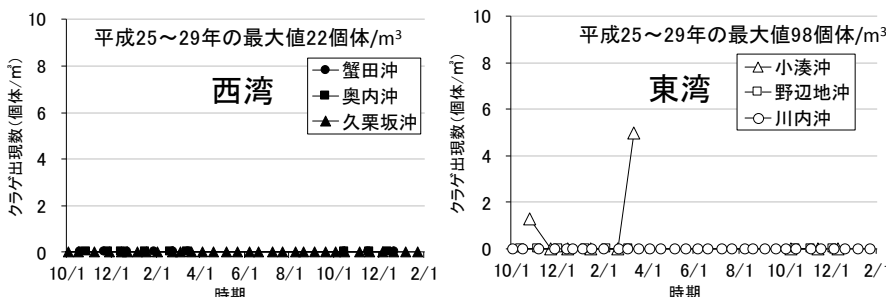


図4 オベリア類クラゲ出現数の推移(平成29年10月～平成31年1月)

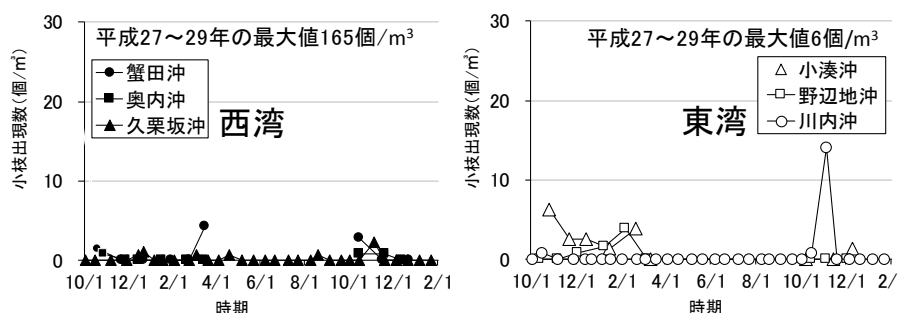


図5 アミクサ小枝出現数の推移(平成29年10月～平成31年1月)

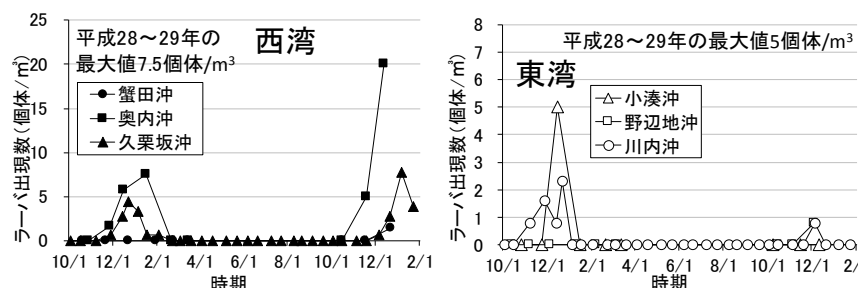


図6 マボヤラーバ出現数の推移(平成29年10月～平成31年1月)

